



～今年度の理学同窓会(瑞滝会)奨学生の紹介～

この度は同窓会奨学生に選出していただき、誠にありがとうございます。

3年後期に雨夜研究室に配属されてから、未知の分子をつくることを目標に研究しています。教科書の内容が役に立つこともあれば、実際にやってみなければわからないことも多くあり、研究の奥深さを実感しています。一步一步確実に研究を進めていけるよう、今後も努力してまいります。

最後になりましたが、ご支援をくださった全ての方々に心よりお礼申し上げます。

学部4年 中 蘭 里菜



今回は同窓会奨学生に選考していただき、ありがとうございました。奨学金をいただくまでは、学校が終わった後や休みの日にアルバイトをして授業の教材費や交通費を稼いでいましたが、奨学金を頂いてからはアルバイトを少なくし、勉強や部活動に当てる時間を多くとることができました。このことによって毎日がより充実したように感じ、勉強を含め好きなことややりたいことをする時間をより多くとることができました。また、経済的に少し余裕が生まれたことで心にも余裕ができ、以前より気持ちが穏やかになったと感じました。これからの学校生活も、奨学生であるという自覚を持ち、努力を怠らず、目標に向かって進んでいきたいです。

学部3年 伊藤 ひなた



この度は瑞滝会奨学生に選出いただき誠にありがとうございます。

私はこの総合生命理学部での学修を通じて「考え方の多様性」への理解を深めることができました。理学の幅広い分野について学ぶことができること、先生方の多様な価値観に触れることができることなどがこの学部の魅力だと思っています。多様な考え方をもとに、今後は多角的な視点で問題にアプローチできるようより一層精進してまいります。

学部2年 大竹 裕太



～同窓会からのお知らせ～

理学同窓会(瑞滝会)奨学生の募集 名古屋市立大学交流会入会のご案内 瑞滝会総会のお知らせ

瑞滝会では学業優秀で学内行事等にも積極的に活動をしている総合生命理学部生(対象は2年生～4年生の各一名ずつ)に同窓会奨学金として、10万円を贈呈します。

申し込み用紙をホームページからダウンロードして申し込んでください。申込期間は令和5年4月15日から5月31日までで、書類を指導教員(担任)に提出してください。

*一度選定された方は応募できません。

*成績、その他の評価は前年度が対象となります。

皆さん、名古屋市立大学交流会に入会していますか。学部単位の同窓会に加えて、卒業生、修了生、大学現旧教職員、本学にゆかりのある方を含めた全学レベルの組織を設立し、大学の発展と社会への貢献を図ることを目的として、平成25年3月「名古屋市立大学交流会」が設立されました。入会方法は「名古屋市立大学交流会」で検索し、入会案内に従いお名前やご住所を記入、返信するだけです。是非、ご入会ください。

今年度の瑞滝会総会は昨年度同様、6月にオンラインによる採択といたします。なお、懇親会は9月頃の開催で準備を進めているところです。

随時、情報を瑞滝会ホームページなどでお知らせいたします。

名古屋市立大学
理学同窓会

瑞滝会
会報誌
2023
March



～同窓会会長からのご挨拶～



私たちの同窓会の源流は、2010年に創られたシステム自然科学研究科同窓会にあります。その後、総合生命理学部の皆さんを迎えて「瑞滝会」として活動を行っています。現在、同窓会の運営はシステム自然科学研究科修了生(5名)と学生役員(1名)、同窓会担当教員(1名)のアットホームな雰囲気の中で行われています。私たちの会が質、量ともに大きく発展を遂げるためには、瑞滝会の運営に会員諸氏の声をより多く反映させる必要があると考えます。今後、学部卒業各年次の方から代議員を選出していただき、同窓会役員とともに瑞滝会のさらなる飛躍を目指すことを検討中です。

これからも会員諸氏のご意見を尊重し、会を運営していく所存ですので皆様ご協力の程、宜しくお願ひ申し上げます。

文末になりましたが、2023年度こそは対面での総会ならびに懇親会が開催できることを役員一同渴望しています。皆様、感染には気を付けてお過ごしください。

名古屋市立大学 瑞滝会 会長 對馬 明
役員一同



～ 学外者向けプログラミング教室 ～

渡邊 裕司 教授

最初の学外者向けプログラミング教室は、2018年度に開催した高校生対象のひらめき☆ときめきサイエンスの「人工知能を知り、プログラミングし、動かしてみよう！」でした。この教室では、高校生33名に対してプログラミング言語Pythonを用いてプログラミングをしてもらいました。開催理由として、新学習指導要領に従い2020年度から小中高で順次必須化されるプログラミング教育に先駆けて、高校生にも人工知能を含めたプログラミングを知ってほしいためでした。また、2018年に開設した当学部とそこにいる情報系教員の存在を少しでも知ってもらうためでもありました。

この教室の評判が大変良かったことから、2019年度からは毎年夏休みの二日間に名古屋少年少女発明クラブとの共催で中学生Pythonプログラミング教室を実施しています。また、学内の経営人材育成講座や進化型実務家教員養成プログラムにおいて社会人向けのPythonプログラミング授業も担当しています。

いくつかの教室ではチューターとして補助する学生の社会貢献の場にもなっていますし、これらの教室で入力されたプログラムやアンケート結果を分析することでプログラミング教育支援システムの研究にもつなげています。



～ 着任してからの名市大(理)の印象と未来予想 ～

雨夜 徹 教授

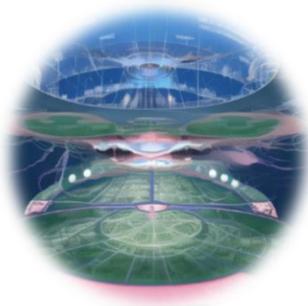


「着任されてから感じたことを書いてください」との依頼を受けました。第一印象は学生がすばらしい！ということです。驚いたのは、様々な分野で行われている「学部学生主体の」ゼミです。アカデミックな雰囲気がある低学年から育まれているのか、と感心しました。また、パスプロの活動も衝撃的でした。着任前に何度も視た総合生命理学部の動画やオープンキャンパスでの活躍などから、エネルギーとポテンシャルを感じました。研究室の学生達もすばらしいです。前向きに研究に向き合う姿に、名市大(理)に来ることができて本当によかった、と心から思います。

二つ目の印象は、これだけの多分野の教員がこの小さい学部集まっていることの「すごさ」です。理学サロンでも実感しましたし、昨年の第一期生の卒論発表会でも、様々な分野の発表を一つの部屋で全員分聴くことができ、強く実感しました。

今、4年間小さな学部で育ってきた学生の多くは、大学院に進学しています。これから学生同士でカジュアルに研究の話ができるようになれば、「分野をまたいだ共同研究」の芽がどんどん出てくるのではないかと感じています。個々を磨きつつ、この点を育んでいけば、名市大(理)独自のアカデミック文化が形成され、それが魅力や競争力になるはずですが、そんな未来を妄想しつつ、私も一教員として名市大(理)の発展に貢献していく所存です。

画像生成AIで「名古屋市立大学総合生命理学部の未来予想」というフレーズにより生成させた図。何やらスピリチュアルな図が、、、自然科学と数理情報の融合が表現されている??



～ 学部生の声 ～

総合生命理学部に入学してから1年たち、もう2年生になります。1年、本当にあっという間です。

それはさておき、とある生物学の教授の話がずっと頭に残っております。「大学とは教えてもらうところではなく、自ら学ぶところである。」入学当初から、生徒ではなく学生であることを自覚させられるのですが、高校時代とは全く違い、レベルの高い授業に頭をかかえていました。しかし、周りの友だちや教授がどんなに初歩的な質問でも多くのことを教えてくださり試行錯誤の毎日ですが何とか学修を続けられています。サークルではオーケストラ部に所属しています。大学生になって初めてチェロという弦楽器に挑戦しているのですが楽器の構造美とそれが生み出す音に触れていると、音楽と物理は密接しているのだなぁと自然の生み出す美学に感嘆しています。総合生命理学部では物理系、生物系、情報系との間で垣根が低い所が非常に魅力的であります。実際、物理選択でしたが大学に入学後、実験や授業の楽しさから、生物学にも興味を持ち始めました。

たとえ勉強していなくても周りから何も言われず、自由な場所にいます。ですが、多くのことに目を向けて学ぶチャンスがこの大学生活に詰まっています。自分の好きなこと、やりたいことを全力でやっつけていけることが本当に楽しいです。



学部1年 柴田 瑠月



「プロの仕事を目指す」これが私の研究生生活の目標であり、教授にいつも言われている言葉です。大学生の次にはどれも、「プロ」の世界が広がっており、高いレベルの成果を常に求められます。それができるために、何を身につければよいかをこの研究室で学んで欲しいと、初めのころに言われ、現在教授や研究室の先輩方に支えられながら、「プロ」の技を少しずつ学んでいます。

今、日々の研究室では、英語の論文を読んだり、最先端の顕微鏡やコンピュータを用いて実験を行えるように練習を積んでいます。初めは英語の論文が全く理解できず、何がわからないのかわからない状態が続いていましたが、知識がつくにつれ、毎日少しずつ論文を理解できるようになっていき、自分の成長を感じ続けています。

最先端の顕微鏡やコンピュータを使った実験は、操作は複雑で覚えなければならない操作、理論がたくさんあり大変です。しかし、「今、実験している」という、研究室の外では味わえない楽しさを常に感じることができています。所属している木村研究室では、常に新しい学びがあり、教授や研究室の方々にも質問がしやすい、大変恵まれた環境であると感じ、この研究室にしてよかったと心から思っています。

将来的には、この研究室に貢献し、世界に通用するような「プロ」になれるように、今、知識と経験を積んでいきたいです。

木村研/学部3年 川口 諒大

～ 卒業生の声 ～

同窓会会員の皆さまにおかれましてはますますご健勝にてご活躍のことと存じます。

私は他大学で管理栄養士を取得し、システム自然科学研究科では健康づくりの研究をしていました。高石先生が自転車運動について研究されており、失礼ながら自転車であれば自分にもできるのでは、自分のように運動が苦手な人にも勧められるのではないかと考えたことが研究の始まりです。落ちこぼれの院生でしたが、さまざまなバックグラウンドを持つ院生の皆さんと過ごした2年間は大変有意義なものでした。

修了後は栄養士養成校の教員として栄養士を目指す学生の教育や研究に携わっています。助手を経て現在は栄養学などの授業を担当するようになりました。授業では大学院で学んだ運動に関する知識や経験も話し、食と運動の大切さを伝えています。

末筆ながら、名古屋市立大学および理学同窓会のますますのご発展をお祈り申し上げます。

木村(旧姓 鋤柄) 悦子

卒業生の進路

◎学部卒業後の進路

大学院進学(本学理学研究科・医学研究科, 他大学大学院)

就職先: 製造業, 情報通信業, 学校教育など

◎大学院修了後の就職先

研究・技術者(化学系, 製薬, 情報系など), 営業系(薬品等), 教員・公務員など